

研究課題名	大腿骨近位部骨折における術翌日立位不能の術前予測因子の検討
試料・情報の利用目的・利用方法（他機関へ提供する場合その方法）	<p>大腿骨近位部骨折(太ももの付け根の骨折)は、ご高齢の方に多くみられる骨折です。この骨折に対しては、人工骨頭置換術や骨接合術といった手術が行われます。手術後はできるだけ早くベッドから起き上がり、立つ練習を始めることが、その後の歩行回復や退院時の生活の自立度に大きく関わることが知られています。特に「手術の翌日に立つことができるかどうか」は、その後の回復の目安の一つになると考えられています。しかし、どのような患者さんが手術翌日に立つことが難しくなるのかについて、手術前の情報だけを用いて詳しく調べた研究は十分ではありません。そこで本研究では、当院で大腿骨近位部骨折に対して手術(人工骨頭置換術または骨接合術)を受けられた患者さんを対象に、過去の診療録(カルテ)に記録されている情報を用いて調査を行います。具体的には、年齢、性別、BMI(体格の評価)、入院時の血液検査値、骨折前の生活状況(外出が可能であったかどうか)、他の部位の骨折の有無、手術までの日数などの手術前に分かっている情報と、「手術の翌日に立つことができたかどうか」との関連を調べます。さらに、手術の種類ごと(人工骨頭置換術と骨接合術)に分けて分析を行い、それぞれの特徴についても検討します。この研究により、手術前の段階で回復の見通しをより正確に予測できるようになれば、術後のリハビリテーションや退院支援をより適切に行うことにつながると考えています。</p> <p>本研究は、通常の診療で得られた情報を振り返って調べるものであり、研究のために新たな検査や治療を追加で行うことはありません。また、本研究に参加しない場合でも、診療上の不利益を受けることは一切ありません。本研究の成果は、今後の急性期治療やリハビリテーションの質の向上に役立てることを目的としています。</p>
研究対象者	<p>本研究の対象となるのは、当院で太ももの付け根の骨折(大腿骨近位部骨折)に対して手術(人工骨頭置換術または骨接合術)を受けられた患者さんです。対象となる期間は、2022年7月1日から2025年12月27日までの間に手術を受けられた方です</p> <p>なお、以下に当てはまる方は対象外となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術を受けていない方 ・医師が本研究への参加が適切でないと判断した方
利用又は提供する試料・情報の項目	<p>本研究では、通常の診療の中で診療録(カルテ)に記録されている以下の情報を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢 ・性別 ・身長・体重 ・入院時の血液検査結果(ヘモグロビン値:貧血の程度を示す値) ・入院してから手術までの日数 ・手術の方法(人工骨頭置換術または骨接合術〔髄内釘〕) ・他の部位に同時に骨折があったかどうか ・骨折する前の生活状況(自分の力で外出できていたかどうか) ・ふくらはぎの太さ(けがをしていない側の下腿周径) <p>これらの情報と、「手術の翌日に立つことができたかどうか」との関連を調べます。</p>
研究予定期間	機関の長の実施許可日 ～ 2026年 7月 5日
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者の範囲	この研究はベルランド総合病院クオリティ管理センターFLS推進室のみで行います
試料・情報の管理につ	ベルランド総合病院 クオリティ管理センターFLS推進室 田中暢一

いて責任を有する者の 氏名又は機関の名称	
研究に協力したくない 場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはありません
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 クオリティ管理センターFLS 推進室 田中暢一 メールアドレス:nob_tanaka@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 Tel:072-234-2001(代)